

▼北陸

【富山】福光の魅力

富山平野の南西に位置する南砺市(なんとし)福光(ふくみつ)。第111回歩こう会は11月、まちなか散策と棟方志功記念館「愛染苑(あいぜんえん)」・鯉雨画齋(りゅうがさい)「観覧を行いました。

南砺市は北陸地区で「住みた田舎」8年連続1位に挙げられ、旧福光町は豊かな温泉が点在し、古くは製糸・紡績業が盛んで文化歴史の凝縮された地域です。

その福光に、棟方志功は戦時中一家6人で疎開、6年8カ月の暮らしの中で制作した作品が「愛染苑」に収められています。「版画・倭画(※)20点、油絵、陶器、ポスター、貴重な写真など民藝の逸品が揃っています。

※倭画Ⅱやまとが、棟方志功が命名した肉筆による日本画。

住まいとアトリエにした「鯉雨画齋」には、押し入れの板戸に雨・鯉・亀・鰻・鮎を描き、厠の天井や壁には菩薩や天女を描く

など圧倒的な迫力です。

また、福光には名物「どじょうのかば焼き」があります。明治20年代から店を開き、現在は2軒。頭から背開きにし、骨をつけたままタレをつけて2〜3度焼く。じろ飴を隠し味に、香ばしさと独特の苦味が福光の地酒と実に合います。



福光どじょうのかば焼き

【石川】昨年度の活動を振り返って

新型コロナウイルス禍の中、同好会活動は慎重な運営のもと、例会を重ねて活動することができました。

絵画同好会は、月1回の例会を金沢市民芸術村で開催してきました。金沢市内で絵の展示会があれば、鑑賞と懇親を兼ねたランチ会を行い、会員相互の親

睦を図ってきました。

俳句同好会である「緑蔭句会」は昨年末に新たな会員を迎えることができました。昨年8月は猛暑と新型コロナウイルスの影響でメール句会もなしの完全休会となりましたが、それ以外は月1回の例会を開催してきました。

写真同好会は月例の他に、昨年5月に福井県坂井市三国、10月は金沢城址公園・兼六園の撮影会を開催しました。

お抹茶を楽しむ会は、立礼式(りゅうれいしき)で金沢市内の中村記念美術館に12名が集まつて開催。

毎年恒例の同好会の作品を展示する合同展示会は、10月10日から5日間、開催することができました。

新型コロナウイルスのもとでも、何とか同好会活動を続けることができました。

【福井】今年こそ活発に！

新型コロナウイルスの第8波が少し落ち着いてきた1月24日、市内の割烹で新年会を兼ね、昼食をほさむ形で理事会を開催しました。



昨年は、俳句の会は月一のペースで開催してきたものの、メインイベントの幸楽会は「干し柿つくり&餅つき」の1回だけに終わり、寂しい思いをしてきただけに、出席した各理事からは異口同音に「今年は何とか動きたいね」の言葉。3年ぶりの総会日程を4月19日に、講演講師に「一乗谷(いちじょうだに)朝倉氏遺跡」保存協会の岸田清会長に依頼することなど骨子を固め、今後、事務局で案内状の作成、発送などの業務を急ぐことにしました。